



特別賞

廣瀬 順子 殿

松山市

■事績

廣瀬さんは小学5年生から柔道を始め、出身の山口県代表としてインターハイに出場するなど活躍していましたが、19歳で膠原病の合併症により視力が低下し始め、中心の視野を失いました。一時は競技を離れるものの2012年に視覚障害者柔道に転向。2014年のアジアパラ競技会で銀メダルを獲得するなど実力を発揮しました。同じ障がい者柔道に取り組む愛媛県出身の悠さんと出会い2015年に結婚、その後は2人で競技に取り組んできました。そして2016年のリオパラリンピックに夫婦そろって出場し、柔道女子57kg級に出場した順子さんは、日本柔道女子初の銅メダルを獲得。続く2021年の東京パラリンピックでも5位に入賞しました。

そして2024年のパリパラリンピックでは柔道女子57kg級（弱視）に出場すると決勝に進み、見事に日本女子で初めてのパラリンピック柔道金メダルを獲得しました。

テレビ愛媛ではリオパラリンピック後の2017年に廣瀬悠・順子夫妻にテレビ愛媛賞を贈呈しており、この度のパリパラリンピック金メダルの快挙を受け特別賞を贈ります。